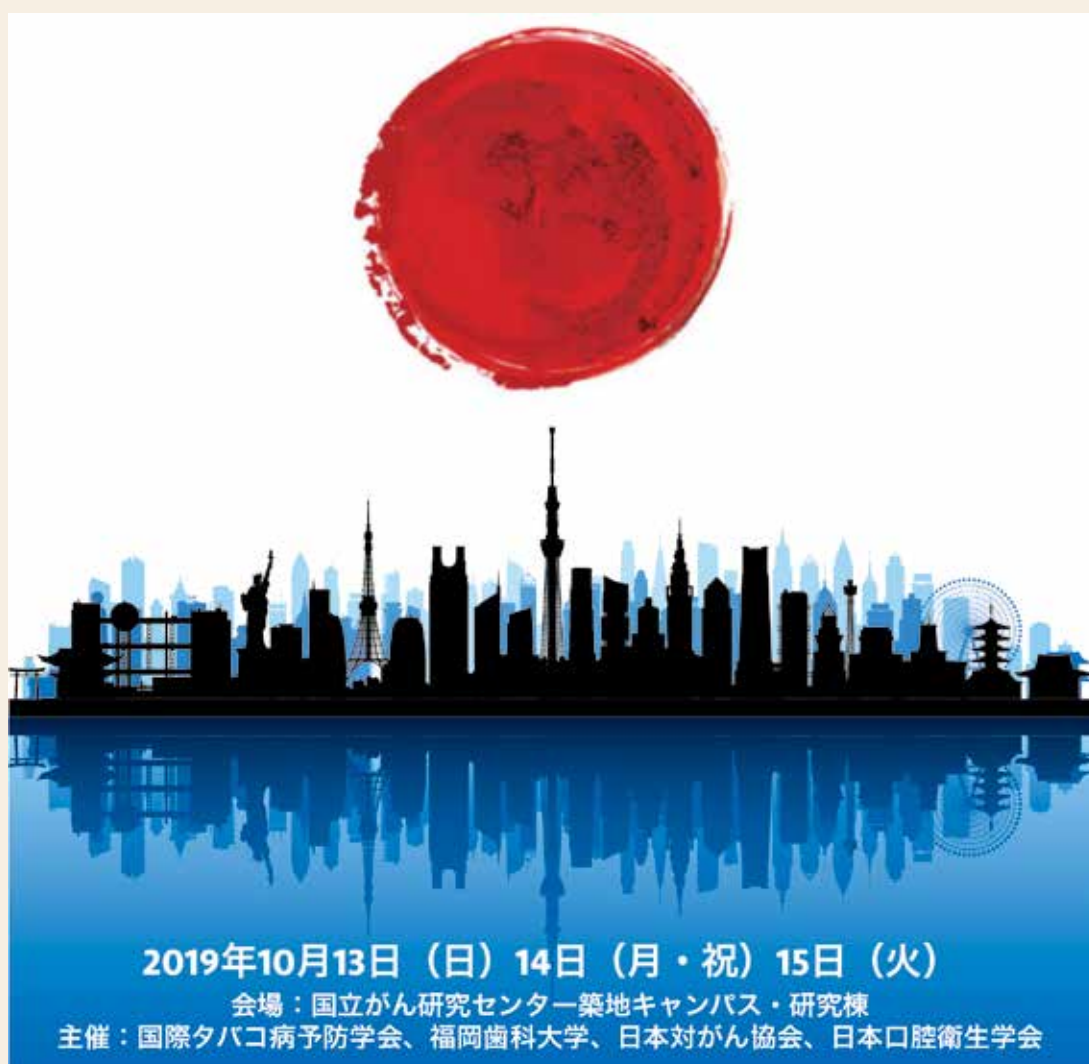


第15回TID年次会合(学術総会) Global Tobacco Free Summit

タバコゼロ社会の実現

～生命の源から見える現実と未来～

大会報告書



第15回TID年次会合(学術総会)
Global Tobacco Free Summit

タバコゼロ社会の実現

～生命の源から見える現実と未来～

大会報告書



目次

グローバルタバコフリーサミット開催概要	3
---------------------	---

第15回TID年次会合を振り返って

世界の英知をこれからの禁煙推進に生かそう	4
大会長 埴岡隆	
しなやかに、したたかに禁煙推進を進めよう	5
実行委員長 望月友美子	
TID小史 1人の毒物学者の熱意から始まった	5

TIDハイライト

①歯科の視点からの禁煙推進に多様な視点	6
埴岡隆 福岡歯科大学教授・日本口腔衛生学会 長尾徹 愛知学院大学歯学部教授	
②グローバルブリッジ・ジャパンの3団体が発表 ～これまでの禁煙支援にないユニークな活動～	8
望月友美子 日本対がん協会参事	
③講演 平山雄先生メモリアル	10
片野田耕太 国立がん研究センターがん統計・総合解析研究部長	
④「新型タバコ」(加熱式タバコ、電子タバコ)の検証が続々	11

特別セッション WHO禁煙革命発足式

健康経営は禁煙から ～企業のさまざまな取り組みを共有～	12
望月友美子 日本対がん協会参事	

講演に、交流に ～にぎわいの3日間～	14
--------------------	----

再録 グローバルタバコフリーサミットのみどころ	16
-------------------------	----

再録 グローバルタバコフリーサミットのプログラム	18
--------------------------	----

日本対がん協会「タバコゼロ宣言」	27
------------------	----

決算報告	28
------	----

グローバルタバコフリーサミット開催概要

1. 主催

- ・国際タバコ病予防学会 (The International Society for the Prevention of Tobacco Induced Diseases, TID)
- ・学校法人福岡学園福岡歯科大学
- ・公益財団法人日本対がん協会
- ・一般社団法人日本口腔衛生学会

- ・名誉大会長：垣添忠生 (日本対がん協会会長)
- ・大会長：埴岡隆 (福岡歯科大学教授)
- ・副大会長：山下喜久 (日本口腔衛生学会理事長／九州大学大学院歯学研究院教授)
- ・実行委員長：望月友美子 (日本対がん協会参事／国際対がん連合喫煙対策委員長)
- ・国内事務局：日本対がん協会
- ・学会本部事務局長：コンスタンチン・バルダバス Constantine Vardavas (ギリシャ・クレタ大学准教授)

2. 開催日程

2019年10月13日 (日) ～ 2019年10月15日 (火)

3. 会場

国立研究開発法人国立がん研究センター築地キャンパス研究棟
東京都中央区築地5-1-1

4. 参加登録費

一般参加費240ユーロ (1ユーロは約120円) ／関係者割引160ユーロ／
学生・同伴者・メディア40ユーロ／法人400ユーロ

5. 参加国／参加者数

約40カ国・地域／約180人 (スタッフ含む)

6. 後援

東京都福祉保健局／日本医師会／日本歯科医師会／日本看護協会／日本薬剤師会／日本医学会連合／日本歯科医学会連合／東京都医師会／東京都歯科医師会／東京都看護協会／東京都薬剤師会／国立がん研究センター／国際対がん連合 (UICC) 日本委員会／日本癌学会／禁煙推進学術ネットワーク／口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会／WHO口腔保健協力センター (新潟大学医歯学総合研究科口腔生命科学専攻口腔健康科学講座予防歯科学)／国立保健医療科学院／健康日本21推進全国連絡協議会／健康保険組合連合会／日本禁煙学会／日本禁煙推進医師歯科医師連盟／日本禁煙科学会／日本タバコフリー学会／グローバルブリッジ (Global Bridges: Healthcare Alliance for Tobacco Dependence Treatment)

世界の英知をこれからの禁煙推進に生かそう

大会長 埴岡隆

福岡歯科大学教授／日本口腔衛生学会・禁煙推進委員会委員長／TID幹事

禁煙への意識が高まる時期に開催

TIDの第15回年次会合（学術総会）の日本招致にあたり、世界保健機関（WHO）と国際オリンピック委員会（IOC）による「タバコのないオリンピック協定」にしたがって、日本国内で受動喫煙防止対策の強化や禁煙への意識が一層高まる2019年を選択した。

テーマも、意識の高まりに伴う禁煙の推進を期待して、「タバコゼロ社会の実現 ～生命の源から見える現実と未来～」と設定した。

大会は、台風19号の直撃を受けて参加できなかった人も少なくなく、プログラムも大幅に変更された。それでも、国内外から約180人が駆けつけて、3日間にわたり3会場で、合計120題以上の発表（講演）やシンポジウムが行われた。いずれも質疑応答も活発で、熱がこもっていた。また、国境や文化、所属、専門領域を越えた交流も随所で見られた。

おかげで、困難を乗り越えて収穫の多い学会になったと確信している。

米国ミネソタ州のメイヨークリニックのテイラー・ヘイズ医師（ニコチン依存症センター所長）は、来日を見送った。だが、2日目朝のプレナリー（全体会議）で、本来なら初日に行う予定だった基調講演「TOBACCO HARM REDUCTION AND CONTINUUM OF RISK」をインターネット経由で行った。

人権を武器に、タバコ規制を政府に迫る

今回、特筆すべき点のひとつが、「タバコと人権」について掘り下げられたことだろう。

米国の反タバコ団体「ASH (Action on Smoking & Health)」のローレン・フーバー事務局長は、2日目のプレナリーで、「HOW TO USE HUMAN RIGHTS PRINCIPLES AND MECHANISMS TO ADVANCE HEALTH AND THE FCTC」と題して講演した。FCTCとは「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」のことである。

ASHは、「タバコの製造・マーケティング・販売は、世界中の人々の健康と生命に対する権利の侵害」という立場を明確にしている。そしてフーバー氏は、各国

政府に、人権への取り組みにタバコ規制を含めるようにさせることを呼びかけた。

フーバー氏は日本についても、「政策立案においてタバコ産業の干渉を受けている度合いが高い」と指摘し、官僚の天下りや喫煙室への補助の終了などを求めた。

いずれの視点も、今後の禁煙推進において欠かせない。

歯科医療従事者に求められる禁煙介入

私が専門とする歯科の分野でもシンポジウムなどを行った（6～7ページ参照）。

喫煙の口腔内への影響は広い。舌がんや歯肉がん、歯の喪失、歯周病、子どものメラニン色素沈着、唾液の性状変化、口臭、味覚の減退……。インプラントの成功率も下がる。

昔から喫煙者は「ヤニで歯が黒くなる」などと口にする。口腔は自分で見られるうえ、歯科を受診する際には健康への意識が高まっている。それだけに、歯科医療従事者は、喫煙習慣のある患者に対して、禁煙の動機付けをしやすい。

ところが、全国でおよそ10万5千人（2016年末時点）に上る歯科医師のうち、禁煙指導を行っている歯科医師は約2割に過ぎない。歯科医療従事者の介入は、今後の課題であろう。

会場で注目を集めたのが、WHOの「The Smoker's Body」という啓発ポスターである。喫煙による全身への悪影響を、がん、白内障、難聴、骨粗鬆症、心臓病などの具体的な病名とともに、視覚的に訴えている。思わずドキッとさせて、有効だ。

東京オリンピック開催予定の前年（結果的に新型コロナウイルスの影響で延期されたが）に、健康増進法改正をもってしても受動喫煙をはじめとするタバコ対策が不十分で、かつ世界に先駆けて「新型タバコ」が流行している日本で、各国の最新の英知を集められた意義は大きい。アジア、アフリカ、東欧などの参加者も目立ち、現状や課題を共有できた。今後は、参加者がこれらの英知を、それぞれの場で生かしていくことが求められる。

また最終日には、WHO禁煙革命も実施された（12～13ページ参照）。
本学会は、多くの方々や団体のご寄付、ご後援、ボ

ランティアなどによって無事に終えることができました。心よりお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

しなやかに、したたかに禁煙推進を進めよう

実行委員長 望月友美子（日本対がん協会参事）

WHO禁煙革命にTID参加者も多数集まる

JTのCMが、タバコそのものではなく人を想う気持ちや多様性の大切さを訴えるなど、一筋縄ではいかない状況のもとでは、禁煙推進にも、さまざまな工夫が必要だろう。

その一つの例が、「WHO禁煙革命（Revolution Smoke-Free）」キャンペーンである。働く人々の健康と安全を守るため、職場の禁煙化や禁煙支援を行うWHOが進めるキャンペーンで、日本では、日本対がん協会がパートナーとなった。

すでに中国などアジア数カ国で展開されているが、日本でも、本学会の最終日に発足式が行われ、多数の参加者が集まった（12～13ページ参照）。民間の力で着実に広めていきたい。

国際競争に乗り遅れないために

2日目には、日本対がん協会が、米国の禁煙推進団体「グローバルブリッジ」と提携している禁煙支援の

人材育成プロジェクトの課題と展望を探るワークショップが開かれた。肺がんサバイバーの男性も発表するなど、多角的な検討を加えられた（8～9ページ参照）。

企業への働きかけと同じくらい重要なのが、教育だろう。小学生のときからタバコの真実を知ることが、当人への喫煙抑止力になり、家族など周囲への波及効果も上がる。

2005年にWHOの「たばこ規制枠組条約」が発効してから15年。日本を含む世界181カ国・地域が批准している。人々をタバコから守る国際競争は始まっている。日本が乗り遅れないためには、喫煙は人権侵害であり、タバコは健康問題と同時に社会問題でもある、という認識も必要なのではないか。

3日間の充実した発表を聞きながら、視野を広く持ち、しなやかに、したたかに行動を起こし続ける重要性を改めて実感した。

開催にあたり、多くの方のお力添えをいただきました。心よりお礼を申し上げます。

TID小史 1 人の毒物学者の熱意から始まった

TIDは2000年、毒物学者のエド・ネルソン博士（1950～2002）によって設立された。

米国で生まれ、ドイツのデュイスブルク・エッセン大学医学部で博士号を取得したネルソンは、心臓移植手術を受けながらも、喫煙および受動喫煙に対する闘いに生涯を捧げた。

ネルソンはTID（発足当時はPTID）を設立すると、機関誌「TID」も創刊した。2002年4月には2度目の心臓移植が必要となったが、移植手術を受けず、エッセンで年次会合を開くべく活動した。

しかし、2002年7月に他界した。

その3カ月後に第1回の国際的な年次会合がエッセンで開かれた。

これまでのTID年次会合

回	開催日	開催地	備考
1	2002年10月28日	ドイツ・エッセン	
7	2008年9月26日～9月28日	日本・京都	京都大学講堂
8	2010年9月30日～10月1日	米国・ボストン	ハーバード大学医学部
9	2011年9月21日～9月23日	オーストリア・ウィーン	ウィーン医科大学
10	2012年9月19日～9月22日	韓国・大邱	啓明大学医学部
11	2013年12月9日～12月11日	ギリシャ・アテネ	第4回汎ギリシャタバコ大会と共催
12	2016年4月5日～4月7日	ベルギー・ブリュッセル	第1回欧州喫煙予防大会（ENSP）と共催
13	2017年5月24日～5月26日	ギリシャ・アテネ	第2回欧州喫煙予防大会（ENSP）と共催
14	2018年10月4日～10月6日	トルコ・イズミル	エーゲ大学文化センター

各会の参加者は100～200人。第2回～第6回の詳細は不明。

歯科の視点からの禁煙推進に多様な視点

埴岡隆／長尾徹

福岡歯科大学教授・日本口腔衛生学会／愛知学院大学歯学部教授

TID年次会合と歯科の結びつきは強い。それは、禁煙推進における歯科の果たす役割の大きさを物語っている。本大会でも、初日のシンポジウムをはじめ複数の歯科セッションが行われ、国内外の医師や研究者が多様な視点から発表、議論した。



初日のシンポジウム。壇上は埴岡隆・福岡歯科大学教授（左）、長尾徹・愛知学院大学歯学部教授

過去5大会で歯学部教授が大会長・副大会長を務める

本学会が刊行する「Tobacco Induced Diseases」は、インパクトファクター（1.9）のあるタバコ専門の3つの学術誌のひとつである。

TID年次会合（学術総会）は、2002年の第1回大会以来、ほぼ毎年開催されている。日本開催は、2008年の京都大学での第7回大会（中原俊隆大会長）以来11年ぶりである。

直近の4大会のうち3回は、開催国・地域のタバコ対策大会との併催となっており、今大会も医学歯学30学会が参加する禁煙推進学術ネットワーク第2回学術会議等と併催で行われた。

本学会の過去5大会では歯学部教授が大会長・副大会長を務めるなど歯科との結びつきが強く、今回も複数の歯科セッションを設置した。

タバコ使用の多様な口腔影響

初日に行われた口腔保健シンポジウム（「TOBACCO OR ORAL HEALTH: TOBACCO DEPENDENCE

TREATMENT BY ORAL HEALTH」）では、愛知学院大学の長尾徹（口腔外科）が座長を務めて、6タイトルの発表が行われた。

広島大学大学院医系科学研究科の重石英生講師（公衆口腔保健学）は、喫煙とヒトパピローマウイルスとの独立した関係を紹介した。

東京医科歯科大学大学院のEi・Ei・Aung研究員（健康推進歯学）がミャンマーで流行する無煙タバコと口腔の健康との関係と、東京でのミャンマー製無煙タバコ販売について報告した。ナイジェリア・ラゴス州立大学予防歯科のAfolabi・Oyapero講師は、バス運転手の歯周病および口腔粘膜病変と喫煙の疫学調査結果について報告した。

愛知学院大学歯学部の長谷川正午講師（顎顔面外科学）は、喫煙および加熱式タバコ抽出成分の口腔角化細胞のマイクロRNAへの影響を、そして、日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座の五十嵐寛子講師は、禁煙による口腔の炎症応答評価について報告した。

また、大会長でもある埴岡隆と小川祐司・新潟大学



埴岡隆氏と小川祐司・新潟大学大学院教授がシンポジウムで示したスライド。WHOが歯科の専門家により喫煙者への介入を勧告している

大学院医歯学総合研究科教授による発表では、喫煙と口腔および一般の疾患への影響を図解したうえで、世界保健機関（WHO）の政策勧告なども見せながら、歯科の専門家による喫煙者への日常的な介入の重要性、日本とタイにおける実践が効果を上げていることなどが語られた。

2016年のいわゆるたばこ白書第4版（「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」、*1）には、歯科疾患等が採用された。タバコ使用の多様な口腔影響を、歯科での禁煙推進に具体的にどのように活かすかについての宿題で締めくくられた。

本大会では、WHOが歯科に推奨する簡易タバコ介入トレーニングのワークショップも別途開催された。ナイジェリアのOyapero講師は、大会後に米国メイヨークリニックでの禁煙治療専門家研修会を修了し、本大会併催のグローバルブリッジセッションが刺激になったと述べている。

タバコ使用に起因する口腔がん発生は公衆衛生問題

インドは3億人以上が無煙または喫煙タバコ使用者で、約500万人いる18歳未満の子どもは、何らかのタバコ製品を使用している。

口腔がんは3番目に多く、患者の多くが家族を持つ働き盛りの男女や若者であり、タバコ使用に起因する口腔がん発生は公衆衛生問題である。

インド最大のがんセンターであるTata記念病院の頭頸部外科教授で、がん疫学センターの副所長でもあるChatruvedi氏は、3日目に開かれた「人権とタバコ」のセッションで、途上国で蔓延している無煙タバコによる頭頸部がんの被害者とタバコ規制の取り組みに焦

歯科領域の喫煙と受動喫煙の健康影響 （いわゆるたばこ白書第4版から）

暴露	因果関係の推定レベル	
	レベル1 *1	レベル2 *2
能動喫煙	口腔・咽頭がん、歯周病（歯肉メラニン色素沈着は症状とされる）	齲蝕（虫歯）、口腔インプラント失敗、歯の喪失
受動喫煙（親の喫煙）		子どものう蝕（虫歯）

*1 根拠十分「科学的証拠は、因果関係を推定するのに十分である」

*2 因果関係を示唆「科学的証拠は因果関係を示唆しているが十分ではない」



会場には、日本口腔衛生学会と福岡歯科大学のバナーも立てられた

点を当てた（*2）。

Chatruvedi氏は、タバコとアルコール規制に多大な関心を示し、タバコ規制活動では世界で最もアグレッシブな医師の1人である。インドのタバコ企業が若者と子どもを販売のターゲットにしていることに反対して積極的なロビー活動を展開してきた。

2008年にタバコ被害者をタバコ規制運動の中心に置いた「Voice of Tobacco Victims」というキャンペーンを始め、ソーシャルメディアを通じ、パブリックメッセージとして被害者の苦しみを社会に訴え、喉頭切除を受けた若者や口腔がん生存者の協力のもとに直接政府を動かす活動を行った。

2011年にはタバコ企業と最高裁で争い、グトゥカー、パンマサラといった無煙タバコ製品を11州で販売禁止に追い込んだ。革新的活動のリーダーシップが認められ国際的な数多くの賞が授与された。

Chatruvedi氏は今回も、南アジア地域固有のタバコ規制に関する諸問題とその課題への挑戦に加えて、日本政府のタバコ産業への投資に対して積極的に問題提起するなどセッション全体をリードし、インドのタバコ規制にとどまらず世界のタバコ使用とタバコ関連事業の削減に貢献した。

文献

*1 厚生労働省 喫煙の健康影響に関する検討会編. 喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書. 2016.

*2 Chatruvedi P et al. Tobacco Related Oral Cancer. BMJ 2019; 365: l2142.

グローバルブリッジ・ジャパンの3団体が発表 ～これまでの禁煙支援にないユニークな活動～

望月友美子 日本対がん協会参事

米国の禁煙推進団体「グローバルブリッジ」は世界各地で、禁煙支援を行う人材育成プロジェクトを助成している。日本対がん協会ともパートナーシップを結び、16団体の活動を支援する。

大会2日目のセッションでは、12団体が参加し、うち3団体が発表した。

禁煙支援の裾野を広げる

「グローバルブリッジ (Global Bridges)」は、米国のメイヨー・クリニック (Mayo Clinic) と米国対がん協会 (American Cancer Society) が、禁煙支援とタバコ規制の政策提言を目的として2010年に設立した国際的な連携組織である。

2016年11月、日本対がん協会と共同パートナーシップを結んだ。そして、2018年4月、日本を中心とした16の団体が、「グローバルブリッジ・ジャパン」として助成を受け、禁煙推進の人材を育成するプロジェクトを開始している。

日本では、保険適用が認められたニコチン依存症管理料があるものの、禁煙支援の担い手は医師や看護師に限られる。海外と比べ、人材やプログラムの裾野は広くない。そこで、グローバルブリッジの活動を通して、人材や支援方法の幅を広げる目標を掲げた。

禁煙指導をする看護師のリーダー看護師を養成

大会2日目、プロジェクトの課題と展望を探るセッ

ションが開かれ、16団体のうち、これまでの禁煙支援でカバーしきれていない領域を担う3団体が発表した。

最初は日本がん看護学会。小松浩子理事長は、「ほかの国の学会とも協力しながら、がん治療に関わる看護師の能力を向上させ、科学的根拠に基づいた禁煙カウンセリングをできるようにサポートすることが目的です」と語った。具体的には次の2つだ。

①がん患者に禁煙指導をする看護師のリーダーを養成する研修

②eラーニングを活用して禁煙指導をできる看護師を増やす

①は、全国がんセンター協議会に加盟する32病院の看護師が対象のワークショップを行い、フォローアップ研修も欠かさない。参加した看護師は自分の医療機関に戻り、周囲の看護師をトレーニングして、患者に禁煙カウンセリングを行ってもらう。

②のeラーニングは、20分ほどで、タバコ依存症の患者への接し方などを学ぶ。禁煙支援をする看護師の数を増やすことが目的で、評価やフォローアップも行っている。

患者にアプローチしやすい歯科衛生士

続いて、日本ヘルスケア歯科学会が発表した。禁煙を支援する歯科衛生士の養成を手がける。歯科衛生士は、プロケアなど口腔衛生や飲食ケアで、禁煙支援のアプローチしやすい。しかも、患者は繰り返し通院する。秋元秀俊事務局長が説明した。

同学会は「禁煙支援歯科衛生士育成プログラム」というワークショップを行っている。禁煙に成功した歯科衛生士や患者のインタビュー映像（「トリガーフィルム」と呼ぶ）を使い、参加者たちがロールプレイングをする。それを繰り返し、ミーティングを行う。2018年は東京・秋葉原に約100人が集まった。参加者たちは自分の歯科に戻ると、同僚に教える。

「日本では、歯科衛生士の禁煙支援はまだ常識には



日本がん看護学会の小松浩子氏の発表



日本ヘルスケア歯科学会の秋元秀俊氏の発表



日本肺がん患者連絡会の長谷川一男氏の発表



セッションでは、班に分かれてワークショップも行われた

なっておらず、診療報酬もつきません。しかし、患者との関係をどう築くかを学ぶワークショップになっています」

発表後、会場から、「看護師や歯科衛生士は禁煙プログラムで重要な役割を果たしています。自分の経験を情報発信していただきたい」という声が出た。

肺がん患者が身近な人を禁煙させる

最後は、日本肺がん患者連絡会だ。肺がん患者自身が身近な人を禁煙させるプロジェクトに力を注ぐ。肺がんのサバイバーでもある長谷川一男代表が発表した。長谷川さんらの調査では、肺がん患者の31%は職場で、6%は家族から受動喫煙している。

「肺がん患者はタバコが怖いんです。そこで、肺がん患者自身が、禁煙できない家族や同僚に禁煙外来に行くように説得するようにしました」

しかし、身近な人の説得はかえって難しい。そこで、ワークショップを10回以上開いた。元喫煙者のメンバーが、家族を禁煙させることに成功していた。禁煙の難しさや苦しみを知っていた経験が役に立ったのだ。長谷川さんは「大事なことは、追い詰めるのではなく、



左から秋元秀俊、ケイティ・ケンパー、望月友美子、垣添忠生の各氏

支えること。応援するのです」と語り、盲点として、未成年の禁煙外来があまり機能していない課題も指摘した。

日本肺がん患者連絡会は、ニコチン依存の強い人たちに受診推奨を行うためのツールも開発している。

セッションには、米国グローバルブリッジの最高責任者、ケイティ・ケンパー氏が参加し、ヨルダンの成功事例を報告した。

ヨルダンは、中東でも喫煙率が最も高く、依存症の治療態勢も整っていなかった。2010年にフセイン王立がんセンターとグローバルブリッジがパートナーシップを組んだ。科学的根拠に基づく禁煙推進プログラムをアラビア語、英語、フランス語の3カ国語で作成し、質の高い人材育成プログラムを近隣諸国にも出前するなどして、成果を上げた。

成功の要因は、行政や専門家、患者らと関係を構築すること、自分たちの禁煙支援事業をきちんと評価することなどだという。

世界のグローバルブリッジのプロジェクトは、日本の16を合わせると100の大台に上る。

グローバルブリッジ・ジャパンの支援を受ける16団体

東京薬科大学薬学部、国立保健医療科学院、日本禁煙推進医師歯科医師連盟、Medscape Education Global、北海道千歳リハビリテーション大学、日本ヘルスケア歯科学会、日本がん看護学会、福岡医科大学／日本口腔衛生学会、結核研究所、日本高血圧学会、日本禁煙学会・薬剤師委員会、日本禁煙学会・禁煙治療と支援委員会、滋賀医科大学、国立がん研究センター、熊本大学大学院生命科学研究部、日本肺がん患者連絡会

講演 平山雄先生メモリアル

片野田耕太

国立がん研究センターがん統計・総合解析研究部長

1981年、国立がんセンター研究所の平山雄・疫学部長が、
受動喫煙と肺がんの関連を世界で初めて報告し、国内外に大きな論争を巻き起こした。
1995年に他界した平山先生の後継者ともいえる片野田耕太氏が講演した。

受動喫煙により肺がんリスクは1.28倍上昇

2人のヒーローがいます。1人、イギリスのリチャード・ドール氏で、1950年代に肺がんと喫煙の因果関係を最初に報告しました。もう1人は、平山雄先生で、1965年から26万5千人以上の人を対象に計画調査をして、1981年、世界で初めて、受動喫煙と肺がんの関係を報告しました。

35年後、私たちの研究グループが、平山先生の研究を含め、日本人を対象にした9つの受動喫煙の研究のメタアナリシス（複数の研究を統合・分析すること）を実施しました。その結果、受動喫煙により肺がんリスクが1.28倍上昇することが見出されました。

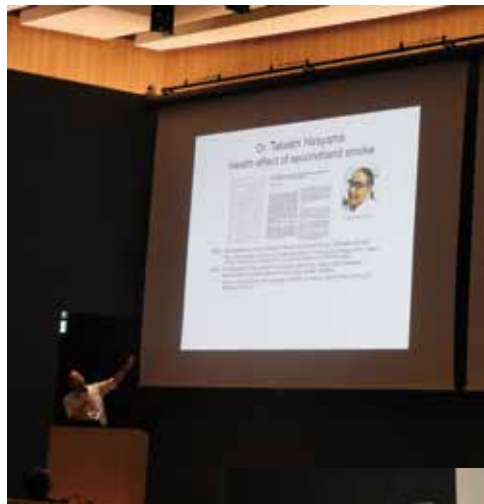
世界の歴史を見ると、1996年には、世界保健機関（WHO）の世界保健総会が、2005年に発効する「たばこ規制枠組条約（FCTC）」につながる決議をしました。2011年には、FCTCに受動喫煙のガイドラインができて、完全禁煙の必要性、自由意志による禁煙政策には効果がないことなどが明記されました。

タバコをめぐる裏の歴史

裏の歴史もあります。平山先生の研究発表の5か月後には、ニューヨークタイムズに「研究には計算間違いがあった」という記事が載り、世界中に広がりました。フェイクニュースでした。イギリスの新聞にも、WHOの国際がん研究機関（IARC）が「受動喫煙はがんの予防になる、という研究結果を隠している」という衝撃的なフェイクニュースが載りました。

米国では受動喫煙をめぐる訴訟も続きました。1991年、7人の客室乗務員がタバコ産業を相手取った集団訴訟では、和解金は3億ドルに上りました。日本でも2004年、東京都江戸川区の職員が江戸川区を相手に勝訴しましたが、賠償金は5万円でした。

2016年、受動喫煙のリスクについての国立がん研究センターの発表に対してJTが反論しました。国立がん研究センターが再反論を出したときはSNSでは話



講演する片野田耕太氏。スライドの写真は平山雄氏



片野田氏は2017年、「平山雄博士の業績を記念するタバコフリー日本賞」を受賞した

題になりましたが、マスメディアの報道は控えめでした。国会でも、2017年や18年に、国会議員が肺がんの患者さんらにヤジを飛ばしています。

新しい時代、スピードアップした行動を

一方、厚生労働省は2016年に「たばこ白書」をまとめました。2018年には改正健康増進法が成立（2020年4月施行）。多くの例外規定がありますが、受動喫煙防止の法律ができたのは大きな一歩です。東京都にはさらに厳しい条例ができました。

社会構造も重要です。財務省がJT株の3分の1を所有していて、年間2兆円のタバコの税収があります。巨額な資金を動かせるのが、タバコ産業の特徴です。

加熱式タバコの流行など日本は新時代に入っています。私たちは、歴史やタバコ産業が行ってきたことを知り、科学的で、社会的なネットワークを総動員し、スピードアップした行動を起こすことが必要です。

（まとめ・日本対がん協会 中村智志）

「新型タバコ」(加熱式タバコ、電子タバコ)の検証が続々

世界各地で増えている「新型タバコ」。

日本では加熱式タバコが世界に先駆けて流行、いや定着してきた。

3日間を通して、多くの参加者が新型タバコ問題を議論した。

基調講演でも取り上げられる

グローバルタバコフリーサミット2日目の午前10時、3つの会場のうち最も大きいホールで、登壇者のいない講演が始まった。

台風で来日を見送った米国・メイヨークリニックのテイラー・ヘイズ医師(ニコチン依存症センター所長)による基調講演である。スライドとともに、インターネットを通じたヘイズ氏の声が流れてきた。

タイトルは、「TOBACCO HARM REDUCTION AND CONTINUUM OF RISK」。ヘイズ氏は、「電子タバコや加熱式タバコによるニコチンの人体への送達も(紙巻きタバコ同様に)、潜在的に深刻である。成人喫煙者を、潜在的に毒性が低いとされるニコチン送達システムへシフトした場合の公衆衛生への影響も、不透明である」

などと語った。加熱式タバコや電子タバコに切り替えたら喫煙や受動喫煙の被害が軽減される根拠はないというのである。電子タバコは、日本では法規制でニコチンを含まないが(個人輸入は別)、海外ではニコチン入りも普通で、米国など各国で規制が強まってきた。

ヘイズ氏は、「我々は、意思決定や健全な議論に導くため、規制の枠組みやエビデンスを構築しなければ



講演後のポーランドのマチエイ・ゴニエヴィチ氏(左)と大和浩・産業医科大学教授

ならない」と言葉をつないだ。

紙巻きタバコと同じ規制が必要

本学会では、ほかにも、加熱式タバコや電子タバコに関する発表が随所で行われた。

初日に開催のシンポジウム「HEATED TOBACCO PRODUCTS AND THEIR ROLE IN TOBACCO HARM REDUCTION」では、大和浩・産業医科大学教授が、加熱式タバコを取り上げた。

加熱式タバコには紙巻きタバコの成分が含まれている。大和教授は、吸って吐き出す際に、エアロゾルが紙巻きタバコ同様に2メートル先まで届くことなどを示し、「紙巻きタバコに比べて有害成分が90%減ったことでリスクも90%減る、というミスリードがされている。紙巻きタバコと同じ規制が必要だ」と強調した。

2日目のセッション「E-CIGARETTES AND NOVEL TOBACCO PRODUCTS」では、ポーランドが電子タバコにおけるヨーロッパの一大市場のひとつであること、台湾では電子タバコを吸う若者の2～3割が紙巻きタバコの非喫煙者であること、などが発表された。また、京都大学医学研究科の里村一成准教授が、「加熱式タバコに対して、警戒の側に立った規制が求められる」と訴えた。

日本は、加熱式タバコのマーケティング市場のようになっている。加熱式なら吸える飲食店がある。「家族の健康を考えて加熱式タバコに変えた」と言って子どもの前で吸う人もいる。だが厚生労働省は、「有害物質が含まれていることは明らかだが、現時点では、受動喫煙による健康への影響の予測は困難」という。

本格的な対策を取るのに、猶予はない。

(文・日本対がん協会 中村智志)



加熱式タバコのIQOSを分析したポーランドのクリシュトフ・ブレウオズニアク氏



加熱式タバコから吐き出されるエアロゾル(大和教授の講演より)

健康経営は禁煙から ～企業のさまざまな取り組みを共有～

望月友美子 日本対がん協会参事

世界保健機関（WHO）は2018年7月から、健康的な職場の実現を目的に

「禁煙革命（Revolution Smoke-Free）と題したキャンペーンを世界中で始めている。

日本では、日本対がん協会がパートナーとなって始動した。

TID最終日、特別セッションとして発足式「禁煙革命 ～健康経営は禁煙から～」が開催された。



発足式のラスト、壇上で集合写真を撮った

禁煙をつなぐボール

ホールの電気が消えると、舞台の2つの大画面に、青いボールを持った筆者（望月）が大写しになった。ボールには「Revolution Smoke-Free」という文字とロゴが書かれている。

筆者がボールをポンと投げる。画面が切り替わり、後藤尚雄・日本対がん協会理事長が受け取る。後藤理事長がボールを投げる。大場康弘・SOMPOひまわり生命保険社長が受け取る。その後も、会社員、お年寄り、作業員、看護師、楽器店の店員、飲食店のスタッフ、カメラマン、宅配便の配達員……多くの人たちが、バトンをつなぐようにボールを渡す。そして、「働く場からタバコがなくなった時、みんなが健康に。」というメッセージが表示される。

WHO禁煙革命の発足式「禁煙革命 ～健康経営は禁煙から～」のオープニングムービーだ。

「あなたの宣言で会社が変わる。社会を変えられる」

WHOは、「民間の力こそが社会を変えていく、という理念でこのキャンペーンを組み立てた」と筆者は

考えている。WHO本部のタバコ・フリー・イニシアチブのディレクターを務めた経験もある筆者が、開会の言葉を述べた。

「防げることが分かっているのに放置するのは、不作為です。日本では、2千万人近くが喫煙者で、喫煙によって年間12万9千人が、さらに受動喫煙のみで年間1万5千人が亡くなっています。受動喫煙の被害者は、家庭と職場が半々です。職場を禁煙にすれば、受動喫煙の問題は起こらず、働く人たちの命をタバコから守れます。タバコ対策は感染症対策にも似ています。個人の力だけでは防げない。社会で防御していくことが



オープニング動画のワンシーン

東京都のタバコ対策について
語る小池百合子都知事



日本語で語ったロート製薬の
ジュネジャ・レカ・ラジュ社長



講演するSOMPOひまわり
生命保険の大場康弘社長



英語で閉会の辞を述べた葛西健・
WHO西太平洋地域事務局長



必要だと思います」

日本からも、この発足式以前から11企業・団体が参画している。モンゴルでは259企業・団体に上る。筆者は「あなたの宣言で会社が変わる。社会を変えられる。是非このキャンペーンに参画して、一緒にタバコゼロ社会を実現していきたいと思います」とも話した。

続いて、WHO西太平洋地域事務局の柏原美那氏が登壇した。柏原氏は、西太平洋地域では年間310万人がタバコで命を落とし、タバコ関連の死者の15%が受動喫煙であることを明かした。そして、禁煙革命では、①参加宣言、②禁煙の環境づくり、③その共有、が3つのステップだと語った。

社員の健康＝会社の資産

ここからは第2部「禁煙革命の宣言と進捗」となった。中国、フィリピンでの取り組みの報告に続き、SOMPOひまわり生命保険の大場康弘社長が講演した。

「生命保険は、お客様の万が一のときに役立つもの。その万が一が、できるだけ遅く来るのをお手伝いしたい。そのためにも、自社の健康経営、禁煙への取り組みは、福利厚生ではなく、経営戦略と密接不可分です」

同社は、就業時間内を禁煙にし、新卒者は非喫煙者を採用することにした。2018年度18.3%の喫煙率を2020年度に12%に下げることが目標とし、喫煙者を禁煙への意欲別に分けて、それぞれに応じ、禁煙教室の開催や禁煙治療のサポートなどを行うという。

その後、第3部「禁煙革命ジャパンのこれから」に入った。

まずは、ロート製薬のジュネジャ・レカ・ラジュ社

長が、日本語で講演した。ラジュ社長は「社員の健康＝会社の資産」という認識を示したうえで、社員が健康状態をチェックするプログラム、毎朝の運動やヨガ、朝食の無料提供などを行っているを紹介した。

2020年4月に社内の喫煙率をゼロにするという同社会長の宣言を実現するべく、社内に健康通貨を作ったり、“卒煙”者を予想する「卒煙ダービー」で盛り上げたりしている。

「タバコが健康に悪いことはみんなわかっている。楽しく進めないとダメなんです」

他社の事例も参考に禁煙を進める

続いて、厚生労働省の神ノ田昌博・健康課長、東京都医師会の蓮沼剛理事のほか、禁煙革命に参加した企業の6人が、自社の取り組みなどを発表した。

オートバックスセブンの太田康弘氏は「当社の喫煙率は、全国平均より高い。禁煙に取り組む会社の本気度を社員にも意識付けするため、禁煙革命に参加しました」と語った。

ソフトバンクの石田恵一氏は、2019年4月から毎月1回の禁煙デーを設けており、2020年4月に就業時間中の全面禁煙を目指すと話した。社内の喫煙室廃止も調整している。

ヤフーは2013年から禁煙支援を行う。小野寺麻未氏は「禁煙革命に参加することで、他社の事例を参考・目標にしながら、よりよい健康経営を進めたい」と述べた。

ラーメンの一風堂で知られる力の源^{もと}ホールディングスの山口恵子氏は「国内外で273店舗展開しているが、海外のスタンダードに合わせて、またお客様や従業員を受動喫煙から守るために、灰皿はご用意していません。禁煙への取り組みが、あたりまえに広まってほしい」と思いを込めた。

最後に、葛西健・WHO西太平洋地域事務局長が、「社員の健康は、より高い生産性に、お客様の信頼獲得に重要です。みなさんのプレゼンの内容は、私のお伝えしたいメッセージと一致しています」などと述べて、会場全体で禁煙への決意を分かち合い、閉会した。

新型コロナウイルス対策では、全世界の人たちが、未来を脅かすパンデミックに対して問題意識を共有し、感染が広がらないように官民を挙げて工夫や努力、協力をしている。タバコ対策においても、同様の姿勢が大切なことを改めて強調しておきたい。

講演に、交流に ～にぎわいの3日間～

国際会議は、学術的な発表や情報交換とともに、人脈を築く場でもある。
台風19号の直撃を乗り越えて集まった参加者たちは、3日間、意欲的に講演し、なごやかに語り合った。
数々のシーンから選りすぐりの場面を写真で振り返る。



10月13日、開会の挨拶をする垣添忠生・名誉大会長（日本対がん協会会長）



世界中から集まった参加者たちがにぎわうレセプション

タバコの害を伝えるWHOの啓発ポスター



「タバコと人権」について語るローレン・フーバー ASH事務局長



ケニアのデビッド・オンチョンガ氏と垣添忠生氏（レセプション）



看護師による禁煙サポートについて話す瀬在泉・防衛医科大学准教授



レセプションではハラール料理もふるまわれた



株式会社CureAppの代表取締役CEO・医師の佐竹晃太氏の講演



加熱式タバコについて話す
樺田(くぬぎた)尚樹・産業医科大学教授



ランチメニューは、初日、2日目はサンドイッチ、3日目はおにぎり



TIDの幕。本拠地のギリシャから運ばれてきた



会場の国立がん研究センター研究棟のホワイエはくつろぎの場となった



禁煙を啓発する本を持ち帰る参加者も多かった



ユニークな禁煙グッズも展示された



WHO禁煙革命のバナーの前で。TIDのスタッフ2人と望月友美子・日本対がん協会参事

Global Tobacco Free Summit: タバコゼロ



HANIOKA TAKASHI

大会長挨拶
埴岡 隆

TID (タバコ病予防国際学会) 理事長
福岡歯科大学口腔保健学講座教授

国際タバコ病予防学会 (ISPTID) の第15回学術総会を開催する国立がん研究センターでは、四半世紀前、日本禁煙推進医師歯科医師連盟の年次会議が開催されました。私は歯学研究者として参加しましたが、学会場は私のタバコ対策研究の出発点でもあります。その後、禁煙推進の学会ネットワークや脱タバコ社会を目指す口腔関連学会ネットワークとも連携を深めてまいりました。

口腔はタバコ中の有害物質の影響を受ける多様な組織があり日常生活に重要な機能があります。歯科専門家にはタバコ関連疾患が重篤になる前に警告を発するという貴重な役割が期待されています。日本で医学歯学の研究者がタバコ対策研究に参加してきたように、この会合をきっかけに世界中の歯科専門家が研究や臨床、提言を通じて、もっとタバコ対策に関わることを願っています。

我が国で世界に先駆けて大流行している「新型タバコ」問題にも、最新の知見をもとにしたシンポジウムや発表で正面から取り組みます。多くの方々のご参加を期待しております。



MOCHIZUKI YUMIKO

実行委員長からのメッセージ
望月友美子

日本対がん協会参事
(禁煙推進・対がん事業開発)
国際対がん連合 (UICC) 日本委員会

世界保健機関 (WHO) タバコ規制枠組条約は2005年に発効した「現世代と次世代の命を守る公衆衛生初の国際条約」です。日本も含む世界181の国と地域が批准し、人々をタバコから守る国際競争が始まっています。また、世界中で官民越えて取り組まれているSDGs (Sustainable Development Goals) と併せて、多くの国々で条約を超えた未来が構想されています。

我が国でも2019年のラグビー世界大会や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の環境要件として、受動喫煙防止が求められていることから、禁煙環境整備のための法律 (改正健康増進法) や地方条例 (東京、神奈川、兵庫等) が次々と制定・改正され、国民や次世代を守るための社会環境が整備され始めました。

しかし国際標準に届くには、まだまだ多くのエビデンスやアドボカシー、戦略が必要です。本会合では「人権」を討議のテーマに含め、さらにWHOが始めた民間セクターの力を取り入れた禁煙推進キャンペーン「禁煙革命」も発足します。一人一人が行動を起こしてはじめて、改革のための変化が起こせるのです。

PROGRAM HIGHLIGHTS

詳細はホームページから (<http://www.tobacco-free-summit.jp>) のついたセッションは同時通訳プログラムは予告なく変更

DAY 1 10/13 (日)

9:00-9:15 開会式・来賓挨拶

9:15-9:30 主催者挨拶
Tobacco Induced Diseases-The Journal, Constantine Vardavas, TID事務局長・クレタ大学

9:30-10:00 大会長講演
「新時代の歯科における禁煙支援」
埴岡隆 TID理事長・福岡歯科大学

10:00-10:30 基調講演
「タバコの連続的リスク」
Taylor Hays, Nicotine Dependent Center, Mayo Clinic

11:00-12:30 シンポジウム
「歯科の新タバコ介入」
小川祐司 新潟大学 WHO口腔保健協力センター ほか

12:30-13:00 特別講演
「平山メモリアル：温故知新」
片野田耕太 国立がん研究センター

13:00-13:30 ランチョン
「垣添忠生のトーク&ウォーク」
「なぜ3500kmの行脚を始めたのか〜がんサバイバー支援の旅」
日本対がん協会 垣添忠生

14:00-15:30 シンポジウム
「新型タバコとハームリダクション」
榎田尚樹 産業医科大学 ほか

《日本語》第2回禁煙推進学術ネットワーク学術会議



一般社団法人 禁煙推進学術ネットワーク
Tobacco Control Medical-Dental Research Network

14:00-15:30 参加30学会活動報告
飯田真美 岐阜県総合医療センター ほか
15:45-17:30 教育セッション「口腔を知ろう」
「学術ネットワーク活動報告」理事長 藤原久義



18:00 歓迎交流会 (学会参加者はどなたでも)
国立がん研究センター中央病院食堂・無料

社会の実現～生命の源から見える現実と未来～

HLIGHT みどころ

[/www.isptid.org/programme](http://www.isptid.org/programme)
または逐次通訳がつく予定です
更改されることもあります



DIVERSITY : 多様な発表

10/13, 10/14, 10/15にそれぞれ実施

オンラインセッション（講堂・セミナーA）

ライブセッション（セミナーB）

- ・受動喫煙・タバコ税・新型タバコ/電子タバコ
- ・タバコの健康影響・禁煙支援・若者とタバコ
- ・人権問題・製品規制・タバコ規制活動 など

INCLUSION : 大きなうねり

企業展示・団体展示 10/13-10/14

- ・企業や団体のイメージムービーによる紹介展示
- ・メッセージボードにあなたの写真と言葉を寄せて、「禁煙の樹」を育てましょう

INTEGRATION : 世界は一つ

「禁煙革命」 Revolution Smoke-Free 10/15

WHOは民間セクターに対して、タバコの煙のない安全で健康な働く環境を作ろうと呼びかけています。あなたの職場も仲間入りしませんか？

www.revolutionsmokefree.org

キャンペーンへの参加はプレッジ（誓約）するだけです。

＜職場の禁煙、従業員の禁煙奨励、従業員の禁煙支援、キャンペーン拡大への協力＞を約束しよう。



DAY2 10/14 (月・祝)

9:00-10:30 シンポジウム

「人権とタバコ」

Pankaj Chaturvedi, TATA Memorial Hospital ほか



11:00-14:00 グローバルブリッジセッション

Global Bridges

Healthcare Alliance for Tobacco Dependence Treatment

「禁煙支援人材育成プロジェクトの課題と展望」

Taylor Hays, Mayo Clinic

Katie Kemper, Global Bridges

望月友美子 日本対がん協会

グローバルブリッジグランティほか



《日本語》口腔保健ワークショップ(7F)

11:00-15:30 (定員20名・別途申し込みが必要)「歯科衛生教育に必要なユニットづくり」

小島美樹 梅花女子大学 ほか



14:00-15:30 シンポジウム

「タバコ規制政策と加熱式タバコ」

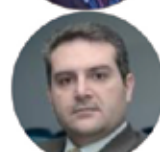
ITC Japan調査とJASTIS調査の結果から」 Geoff Fong, Waterloo大学 ほか

16:00-17:30 シンポジウム

「地域課題と専門家の挑戦と役割」

Feras Hawari, King Hussein Cancer Center

長尾徹 愛知学院大学 ほか



DAY3 10/15 (火)

9:00-12:00 ワークショップ

「人権とタバコ問題の諸相」

Laurent Huber, Action on Smoking and Health (USA)ほか



13:00-15:00 特別セッション

＜参加費無料＞(別途申し込み)

「禁煙革命：職場に変革の息吹を」



小池百合子 東京都知事

「禁煙革命」参画企業代表者

柏原美那 WHO西太平洋地域事務局

葛西 健 WHO西太平洋地域事務局 (予定)

神ノ田昌博 厚生労働省健康局健康課

蓮沼剛 東京都医師会 ほか



15:00-15:30 閉会式

若手表彰「Ed Nelson 賞」

「東京宣言」採択

共同記者会見

次期開催地紹介



Prof. Ed Nelson(1950-2002)
Founder of ISPTID

Global Tobacco Free Summit TID 15TH ANNUAL CONFERENCE

Tokyo Conference I Programme



TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
SUNDAY 13 OCTOBER (Day 1)			
10.30-11.00	REGISTRATIONS		
11.00-11.10	WELCOMING REMARKS FROM A REPRESENTATIVE OF: JAPAN CANCER SOCIETY, JAPAN MEDICAL ASSOCIATION AND JAPAN DENTAL ASSOCIATION		
11.10-13.00	11:10-12:30 SYMPOSIA - TOBACCO OR ORAL HEALTH: TOBACCO DEPENDENCE TREATMENT BY ORAL HEALTH PROFESSIONALS	11:00-12:00 SECONDHAND SMOKING	RAPID COMMUNICATION SESSION 1
	Chairs: Toru Nagao & Hiroshi Ogawa	Chairs: Magdalena Cedzynska	Izumi Sezai
	Hideo Shigeishi Association between oral HPV prevalence and smoking in people without oral cancer	Chris Rathbone The Olympics as an opportunity to have a legacy of SHS protection in Japan	Improvement of cognition for smoking cessation support in nurses who received Japanese Smoking Cessation Educational Program - Program contents and evaluation methods, background of participants
	Ei Ei Aung Current situation of smokeless tobacco consumption and oral health impact in Myanmar	Satomi Odani Familial secondhand smoke: Tobacco use and adoption of smoke-free home and car rules among US parents	Chie Taniguchi Improvement of cognition for smoking cessation support in nurses who received Japanese Smoking Cessation Educational Program: Outcome evaluation before and after the program
	Afolabi Oyapero Burden of tobacco and alcohol consumption and its association with periodontal disease, potentially malignant lesions and quality of life among bus drivers in Lagos State, Nigeria	Suketaka Iwanaga Analytical study on street smoking ban by local ordinances in Japan, 2002-2018	Eonjoo Park A study on the relationship between the search trends and the news through the smoke-free apartment
	Shogo Hasegawa Effects of cigarette smoke extract and heat-not-burn cigarette smoke extract on microRNA expression in keratinocyte cells	Peeraya Suteerangkul The effects of Community Participation Program on smoke-free home in sub-urban community of Thailand	Hisamitsu Oomori Development of a network for training health care professionals in smoking cessation in medical check-ups in Kumamoto
	Hiroko Igarashi Evaluation for inflammatory response after smoking cessation on human oral cavity		Kumiko Tanabe Operation is a good opportunity for smoking cessation
	Hiroshi Ogawa and Takashi Hanioka Tobacco cessation and oral health integration in the world and Japan		Takako Fujita Evaluation of factors affecting the maintenance of smoking cessation among individuals in Japan
			Tamae Shimamura Effectiveness of a smoking cessation support program for tuberculosis patients in Japan

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
	12:30-13:00 - HIRAYAMA MEMORIAL LECTURE PRESENTER: DR. KOTA KATANOTA	12:00 TAXATION	Wonjeong Yoon Tobacco quitting characteristics and e-cigarette vaping among Korean ever smokers
		Chair: Hedley Quintana	Sung-il Cho Time spent on smartphones are associated with exposure to online tobacco advertisements among youths
		Renny Nurhasana Public support for cigarette price increase in Indonesia	
		Laura Rossouw The impact of tobacco taxation on illicit cigarette trade in selected low- and middle-income countries	Shekhar Grover A revisit at 16 years for individuals from peri-urban New Delhi for tobacco use and associated oral lesions
		Wayne Gao The effect of industry vs government induced cigarette price increase on national cigarette consumption in Taiwan, 2011-2018	Meng Li Factors associated with success of quitting smoking in Japanese Smoking Cessation Treatment Program: A systematic review and meta analysis focusing on gender, medicine and having present diseases
13.00-14.00	LUNCH BREAK & LUNCHEON ROUND TABLE: DR KAZIKOE'S TALK AND WALK		
14.00-15.30	SYMPOSIA - HEATED TOBACCO PRODUCTS (HTPS) AND THEIR ROLE IN TOBACCO HARM REDUCTION	TOBACCO DEPENDENCE TREATMENT 1	TCR-NET 1. PITCH (JAPANESE SESSION 1)
	Chairs: Geoffrey T. Fong & Yumiko Mochizuki	Chairs: Kazuo HASEGAWA & Pawel Koczkodaj	Activity report of 30 academic societies: the expanding circle of academic activities in Japan
	Richard O'Connor Forms of HTPs and how regulators in selected countries have classified them	Hiroko Tobari Comparison of two train-the-pharmacist programs for supporting tobacco-nicotine dependence in Japan	
	Geoffrey T. Fong Transition patterns and predictors of transition from combustible tobacco cigarettes to HTPs using data from ITC Japan Survey	Paraskevi Katsaounou WHO-ERS train the trainer in smoking cessation: Three years' experience	
	Naoki Kunugita An overview of laboratory studies that measured nicotine and toxicant emissions from various HTPs available in Japan	David Onchonga Validation of a willingness-to-quit questionnaire for use among active tobacco products users in medical practice	
	Maciej Goniewicz Evidence from in vitro and in vivo studies on how potential health risk of using HTPs compares to risk of smoking tobacco cigarettes	Binh Thang Tran Determinants of intentions to quit smoking among daily smokers in Vietnam: Results from Global Adult Tobacco Survey (GATS) in Vietnam 2010-2015	

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
	Hiroshi Yamato Novel findings from studies evaluating secondhand exposure to HTPs and use of these products in public places Gan Quan Implications of the presented data for public health policy, product regulation, and future research	Krzysztof Przewoźniak Are Electronic Nicotine Delivery Systems (ENDS) an effective aid in smoking cessation?: A critical look Hiroki Tateno A randomized controlled trial of a novel smoking cessation smartphone app integrated with a mobile CO checker	(CONTINUED) Activity report of 30 academic societies: the expanding circle of academic activities in Japan
15.30-15.45	COFFEE BREAK		
15.45-17.15	TCR-NET 2. EDUCATION SESSION (JAPANESE SESSION 2)	TOBACCO, CVD AND LUNG HEALTH	RAPID COMMUNICATION SESSION 2
	Focus on oral health: Tooth loss, dental caries, periodontal disease, oral mucosal lesion, and oral implant problems	Chairs: Feras Hawari Yueming Yan The effect of smoking on the incidence of acute myocardial infarction in Tianjin, China, 2010-2013 Yusuke Miyazaki Nicotine had no effects on cardiomyocyte death, and hypertrophy	Artyom Gil Pronounced mortality fluctuations from diseases of circulatory system at working ages in Russia after 1991: Does tobacco play a role? Ayumi Katayama Serum levels of Cystatin C, a sensitive marker of cardiovascular disease: Decrease after smoking cessation
	TCR-NET 3. LECTURE (JAPANESE SESSION 3)	Chi Pang Wen Pre-screening mechanism for LDCT lung cancer screening: Identifying higher-risk individuals among never smokers	Makoto Fukui Long-term smoking affects the oral health status of later stage elderly males and increases the cost of dental treatment
	Current status and future of the Tobacco Control Medical-Dental Research Network	Hiroo Wada Family history of smoking Smoking Initiation. Behaviorally and genetically transmitted	Masafumi Funamoto The effect of highly absorbed curcumin on an oxidized LDL in patients with COPD
		Hiroyuki Yamada Environmental tobacco smoke exposure affects the QT interval during early infancy	Michiyo Mizuno Serum levels of Cystatin C, a sensitive marker of cardiovascular disease: Decrease after smoking cessation
		Paraskevi Katsaounou Smoking cessation in diabetic patients	Miho Yamada Reality and possibility of smoking cessation support and collaborative approach by dental hygienists
			Shin Koie Effects of cigarette smoke extract and heat-not-burn cigarette smoke extract on microRNA expression in keratinocyte cells
			Sung-il Cho Who still smokes in older age?
			Toru Nagao Early and late implant loss among smokers according to a large-scale survey in Japan

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
	Hiroshi Yamato Novel findings from studies evaluating secondhand exposure to HTPs and use of these products in public places Gan Quan Implications of the presented data for public health policy, product regulation, and future research	Krzysztof Przewoźniak Are Electronic Nicotine Delivery Systems (ENDS) an effective aid in smoking cessation?: A critical look Hiroki Tateno A randomized controlled trial of a novel smoking cessation smartphone app integrated with a mobile CO checker	(CONTINUED) Activity report of 30 academic societies: the expanding circle of academic activities in Japan
15.30-15.45	COFFEE BREAK		
15.45-17.15	TCR-NET 2. EDUCATION SESSION (JAPANESE SESSION 2)	TOBACCO, CVD AND LUNG HEALTH	RAPID COMMUNICATION SESSION 2
	Focus on oral health: Tooth loss, dental caries, periodontal disease, oral mucosal lesion, and oral implant problems	Chairs: Feras Hawari Yueming Yan The effect of smoking on the incidence of acute myocardial infarction in Tianjin, China, 2010-2013 Yusuke Miyazaki Nicotine had no effects on cardiomyocyte death, and hypertrophy	Artyom Gil Pronounced mortality fluctuations from diseases of circulatory system at working ages in Russia after 1991: Does tobacco play a role? Ayumi Katayama Serum levels of Cystatin C, a sensitive marker of cardiovascular disease: Decrease after smoking cessation
	TCR-NET 3. LECTURE (JAPANESE SESSION 3)	Chi Pang Wen Pre-screening mechanism for LDCT lung cancer screening: Identifying higher-risk individuals among never smokers	Makoto Fukui Long-term smoking affects the oral health status of later stage elderly males and increases the cost of dental treatment
	Current status and future of the Tobacco Control Medical-Dental Research Network	Hiroo Wada Family history of smoking Smoking Initiation. Behaviorally and genetically transmitted	Masafumi Funamoto The effect of highly absorbed curcumin on an oxidized LDL in patients with COPD
		Hiroyuki Yamada Environmental tobacco smoke exposure affects the QT interval during early infancy	Michiyo Mizuno Serum levels of Cystatin C, a sensitive marker of cardiovascular disease: Decrease after smoking cessation
		Paraskevi Katsaounou Smoking cessation in diabetic patients	Miho Yamada Reality and possibility of smoking cessation support and collaborative approach by dental hygienists
			Shin Koie Effects of cigarette smoke extract and heat-not-burn cigarette smoke extract on microRNA expression in keratinocyte cells Sung-il Cho Who still smokes in older age? Toru Nagao Early and late implant loss among smokers according to a large-scale survey in Japan

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
	Sadatomo Tasaka Tobacco control policies in medical schools and nursing colleges in Japan: a national survey	Global Bridges Grantee Organizations	Lisbeth Lund Sex differences in the attitudes towards a school-based smoking prevention intervention
	David Onchonga Social variations in tobacco products consumption in Kenya: The influence of education, employment status and gender	Grantee testimonials	Masamitsu Endo Smoking prevention class by physicians reduced smoking rates after 8 years
	Krzysztof Przewoźniak Attitudes towards tobacco control policies among smokers of menthol, other flavored and unflavored cigarettes: Findings from the EUREST-PLUS ITC Europe Surveys	Brainstorming activities	Masayuki Kaji Awareness of e-cigarette and heat-not-burn tobacco, and actual status of their use among Japanese students
13.00-14.00	LUNCH BREAK		Miki Ojima Subgroup meta-analysis on relationship between secondhand smoke exposure and dental caries
			Naoki Toyama Association among secondhand smoke exposure, sleep quality, and prevalence of sleep bruxism in Japanese young adults: A cross-sectional study
			Reiko Saito Exposure of children to secondhand smoke is abuse: A new definition
			Suci Puspita Ratih How Indonesian media portray electronic cigarettes: A content analysis of online news reports from 2012-2017
			Yohei Inaba Determination of harmful chemical compounds generated from heated tobacco products in Japan
			LUNCH BREAK



Page 6/9

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
16.00-17.30	INTERACTIVE SESSION: HOW THE EXPERTS COULD RESPOND TO THE REGIONAL CHALLENGES AND LEAD TO HOPE	E-CIGARETTES AND NOVEL TOBACCO PRODUCTS	(CONTINUED) EXHIBITION
	Chairs: Yumiko Mochizuki & Christopher Rathbone	Chairs: Naoki Kunugita & Satomi Odani	
	Kota Satake (Asia/Japan) Innovation vs Innovation, Business vs Business	Jia-Yu Zhong Use of electronic cigarettes and heated tobacco products among junior and senior high school students in Taiwan	
	Laurent Huber (Americas/USA) Civil Society's Power, ASH to FCA	Agata Ciuba The patterns and trends in e-cigarette consumption and use in Poland: One of the biggest markets in Europe	
	Feras Hawari (Middle East/Jordan) Behave like cancer, cancer control "metastasis"	Kazunari Satomura What is necessary to evaluate negative health effects of tobacco vaporizers in Japan?	
	Cornel Radu Loghin (Europe/Romania) Power of networking, lessons learned from ENSP	Krzysztof Przewoźniak Does IQOS harvest personal data from users and manipulate their tobacco habits?: A review of current evidence	
	Radhouane Fakhfakh (Africa) The North African perspective	Ying Jiang Changes in recognition and usage of heated tobacco products among Japanese workers	
	Katie Kemper (Global Bridges) - discussant Bridging the gaps, global bridges' vision	Abu Hena Mostafa Kamal E-cigarette: Threat of new dimension of tobacco marketing, distribution and availability in Dhaka city	
	Mina Kashiwabara (WHO) - discussant Think globally, Act locally, Move on regionally		(CONTINUED) EXHIBITION

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
TUESDAY 15 OCTOBER (Day 3)			
09.00-10.30	HEATED TOBACCO PRODUCTS USE IN TOBACCO HARM REDUCTION IN EUROPE Chair: Cornel Radu-Loghin Paraskevi Katsaounou Harm reduction in smoking. Wolf in sheep's clothing Filippos Filippidis ERS position on harm reduction Constantine Vardavas Using big data in tobacco control Katerina Nikitara Changes in e-cigarette use and label awareness before and after the Tobacco Products Directive (TPD) implementation in 6 European countries	TOBACCO DEPENDENCE TREATMENT 2 Chairs: Krzysztof Przewoźniak Yi-Hsien Liu Improvement of tobacco-free hospitals' cessation services with a pay-for-performance subsidy in Taiwan. Irena Przepiórka Smoking cessation and HIV positive patients Dilek Karadoğan Are we questioning our patients' smoking status appropriately? Magdalena Cedzynska Cancer and smoking cessation BinhThang Tran Impact of population-level tobacco control interventions on smoking quit intention in Vietnam	ASH WORKSHOP USING HUMAN RIGHTS ARGUMENTS AND FRAMEWORKS TO ADVANCE TOBACCO CONTROL, A PRACTICAL APPROACH. Laurent Huber The overlap between tobacco control and the human rights agenda and the nexus between individual and group rights. Human Rights Entry points to advance tobacco control at local level (Universal Periodic Review, Treaty Monitoring Bodies) Case studies: Bosnia, Germany and Spain Practical approach, introducing ASH's tool kit and HR Hub Group moderated discussion on how it could the human rights based approach could be used in Japan to advance tobacco control 
10.30-10.45	COFFEE BREAK		
10.45-12.15	TOBACCO CONTROL IN ACTION Chairs: Renny Nurhasana & Radhouane Fakhfakh Minoru Fukuda JSMO Tobacco Control Action: Result of a membership survey Fumio Bessho Can tobacco industry be compatible with the purport of SDGs?	YOUTH AND TOBACCO Chairs: Wayne Gao & Kyo Ei Wahyu Septiono Social patterning in Indonesian adolescent smoking: A mediation analysis of family smoking, parental control, and parental permissiveness Hedley Quintana Secular trends in tobacco use prevalence among Panamanian students aged 13-15 years, GYTS 2002-2017	(CONTINUED) 

TIME	1F LECTURE HALL	1F SEMINAR ROOM A	1F SEMINAR ROOM B
16.00-17.30	INTERACTIVE SESSION: HOW THE EXPERTS COULD RESPOND TO THE REGIONAL CHALLENGES AND LEAD TO HOPE Chairs: Yumiko Mochizuki & Christopher Rathbone Kota Satake (Asia/Japan) Innovation vs Innovation, Business vs Business Laurent Huber (Americas/USA) Civil Society's Power, ASH to FCA Feras Hawari (Middle East/Jordan) Behave like cancer, cancer control "metastasis" Cornel Radu Loghin (Europe/Romania) Power of networking, lessons learned from ENSP Radhouane Fakhfakh (Africa) The North African perspective Katie Kemper (Global Bridges) - discussant Bridging the gaps, global bridges' vision Mina Kashiwabara (WHO) - discussant Think globally, Act locally, Move on regionally	E-CIGARETTES AND NOVEL TOBACCO PRODUCTS Chairs: Naoki Kunugita & Satomi Odani Jia-Yu Zhong Use of electronic cigarettes and heated tobacco products among junior and senior high school students in Taiwan Agata Ciuba The patterns and trends in e-cigarette consumption and use in Poland: One of the biggest markets in Europe Kazunari Satomura What is necessary to evaluate negative health effects of tobacco vaporizers in Japan? Krzysztof Przewoźniak Does IQOS harvest personal data from users and manipulate their tobacco habits?: A review of current evidence Ying Jiang Changes in recognition and usage of heated tobacco products among Japanese workers Abu Hena Mostafa Kamal E-cigarette: Threat of new dimension of tobacco marketing, distribution and availability in Dhaka city	(CONTINUED) EXHIBITION (CONTINUED) EXHIBITION

日本対がん協会「タバコゼロ宣言」



日本対がん協会は2003年、世界保健機関（WHO）でたばこ規制枠組条約が採択され、健康増進法が施行されたのを機に、「禁煙宣言」を公表した。15年たった現在、東京五輪を前に禁煙・受動喫煙防止を求める世論は盛り上がる一方、新型タバコが登場するなど、喫煙を巡る状況は大きく変化している。

喫煙はがんや様々な生活習慣病の大きな危険因子で、禁煙は最大のがん予防策であることは変わらない。そこで日本対がん協会は2003年の禁煙宣言を、現在の状況に見合う内容に変え、「タバコゼロ宣言」として公表する。

1. 喫煙者をなくす

すべての喫煙者に対して禁煙支援サービスを提供する

2. 受動喫煙をなくす

すべての人々（喫煙者も非喫煙者も）を受動喫煙から守る

3. 喫煙開始をなくす

すべての子どもたち・大人がタバコを吸い始めない社会をつくる

4. タバコ産業との利害をなくす

すべての協会活動はタバコ産業からの資金提供や協力を受けない

5. 新型タバコをなくす

すべてのタバコ製品は有害性と依存性の観点から規制対象とする

日本対がん協会は、がん征圧という創立以来の社会的使命を遂行するために、5つの「Zero（ゼロ）」を掲げ、現世代及び次世代をタバコによる害悪から守る社会を実現する。そのためにグループ支部や関係団体にも広く協力を呼びかけ、あらゆる機会を通じて情報提供、実践活動、政策提言を行い、わが国の禁煙推進をかつてない水準まで高めていく。

平成30年（2018年）9月13日
公益財団法人 日本対がん協会

日本対がん協会「禁煙宣言」



喫煙は、がんやさまざまな生活習慣病の大きな危険因子である。日本対がん協会は、21世紀の重点活動として「禁煙の勸め」を掲げた。世界保健機関（WHO）でたばこ規制枠組条約が採択され、健康増進法が施行されたのを機に、「禁煙宣言」を発表する。

1. 日本対がん協会に携わる者は喫煙しないように努め、協会施設の禁煙を推進する。
2. 日本対がん協会は、喫煙の害に関する啓発活動を進め、未成年者の喫煙防止と、喫煙者への禁煙を呼びかける。
3. 日本対がん協会は、禁煙希望者に対する支援を推進し、受動喫煙による非喫煙者の健康への影響を防止する対策を推進するよう関係者にはたらきかける。
4. 日本対がん協会は、たばこ製品の広告規制や警告文書の強化、自動販売機の規制強化を関係機関に求める。
5. 日本対がん協会は、たばこ価格を喫煙対策先進国並に上げ、増収、増税分の一部を喫煙対策の推進の費用に充てるよう関係機関にはたらきかける。

平成15年（2003年）9月17日
日本対がん協会 がん征圧全国大会

グローバルタバコフリーサミット決算報告

2020年3月23日

	科目	入金元	金額(税込)
収入	主催者拠出金	(公財) 日本対がん協会	2,000,000
		福岡歯科大学 / (一財) 日本口腔衛生学会	2,000,000
	参加費	個人、法人	625,000
	補助金	福岡歯科大学	799,136
		禁煙推進学術ネットワーク	300,000
		口腔9学会合同委員会	100,000
	寄付金等	(株) CureApp	100,000
		原田産業(株)	100,000
		ロート製薬(株)	100,000
		UICC(国際対がん連合) 日本委員会	200,000
		喫煙社員ゼロチャレンジ事務局	1,000,000
	合計		7,324,136
支出	科目	支払先	金額(税込)
	委託費(会議運営、通訳等)	(株) 日本旅行、(株) ユニカルインターナショナルほか	2,429,404
	会議費(レセプション等)	ハーベスト(株) ほか	831,541
	賃借料(会場機材等)	リコージャパン(株) ほか	802,780
	大会報告書作成・発送費	キンコーズ・ジャパン(株) ほか	281,155
	事務局人件費、事務局経費	(公財) 日本対がん協会	3,070,100
	雑費(消耗品、通信費等)、旅費交通費		323,350
	合計		7,761,630
収支			-414,194

赤字額(414,194円)は日本対がん協会が補填。なお決算はTIDと協議のうえ、国内外で分離した。

第15回TID年次会合(学術総会)
 グローバルタバコフリーサミット 大会報告書
タバコゼロ社会の実現
 ~生命の源から見える現実と未来~

2020年3月31日発行

発行 公益財団法人日本対がん協会
 学校法人福岡学園福岡歯科大学
 一般社団法人日本口腔衛生学会

事務局 日本対がん協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

デザイン 大石一雄

印刷・製本 キンコーズ・ジャパン株式会社



学校法人福岡学園福岡歯科大学



公益財団法人日本対がん協会



一般社団法人日本口腔衛生学会

